

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税の意義を知って

熊谷市立妻沼西中学校 三年 橋本 直澄

「税ってなんだろう。」

この作文を書く時、思ったことはこれだった。今まであまり税について関心がなかったからだ。そこで本やインターネット等を使って調べてみると意外なことが分かった。

そもそも日本で税が本格的に集められ始めたのは、弥生時代、邪馬台国の頃からである。また、奈良時代になると班田収授法によって、田畑が農民に与えられる代わりに、収穫した米を納める「租・庸・調」の税が課せられていた。こうして、税の歴史を見る限り、人と税との関係が根強いことが分かる。僕は内心びっくりし、こんな昔から税があったのかと…。古代と現代の納税方法の違いを見ると古代の米などの現物、つまり実用品を納めているが現在はお金を納めている。この違いは生活様式の変化にあるだろう。

ここで話を現代に戻す。数多くある税の中で僕は最も身近な「消費税」について調べてみた。消費税の意義は「商品の販売やサービスの提供にかかる税」である。この消費税が導入されたのは実は平成元年と割と近年だった。5%の消費税のうち4%が国に1%が地方に納められるそうで、この税金の約四割が身近な地域の暮らしのために、残りの六割程が私たち老後の生活の安心などを確保するために使われる。

百円の商品についてくる5円は税金だったのかという驚きだった。このように意識的に消費税に目を向けると、ちょっと義務を遂行した実感がわいてきた。

今まで税について調べていて「もしも、納税の義務がなかったらどうなるのかな。」と思ったので、ちょっと仮想の映像をみてみよう。

中学校の授業風景。

「それでは授業料千円を払った人だけ数学の授業を受けなさい。」と先生が初めに言った。

昼休み。

「先生、ここがわからないのですが。」

「三百円です。」とあっさり先生が言う。笑うに笑えない話だと思わないだろうか。日本国憲法第三十条[納税の義務]がなかったらこんな一幕があったろう。

消費税だけでなく、数多くある税は国民生活をより豊かにするものだと思う。安心して教育を受けられる学校、安心して赤ちゃんを育てられる社会。安心して老後を迎えられる世の中は、まず納税から始まるのではないか。でも今現在、国民の義務である納税を全額納めていない若者もいると聞く。僕たちは強く意識しよう、と思う。

納税と言うのはただの義務という意味合いだけではないと僕は思う。みんなの「夢」と言う「花」を咲かせるための「種」なんだと。その「種」をまいて花を咲かせることが、僕たちの「使命」なんだと思う。